



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 87 号

-
- | | |
|---|----------------------------------|
| ・発行日 / 2012 年 7 月 31 日 | ・発行所 / クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局 / 〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2 - 7 - 63 - 1001 草野計雄方 | ・Tel / Fax 054-283-9317 |
| ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994 | ・e-mail / cnec-kk@mail.wbs.ne.jp |
| | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
-

「クリスチャン パートナーズ理事辞任のご挨拶」草野計雄

クリスチャン パートナーズが「権利能力なき社団」(ボランティアの集まり)として発足したのは 1984 年 11 月 28 日でした。当初より名前はクリスチャン パートナーズ(英文名: Partners International Japan)ときめられました。わが国では「クリスチャン」の団体であることを鮮明にした名称は、教会以外ではごく少数ではないでしょうか。この名前は私たちの使命を象徴し、心ある会員の賛同をいただけてきました。

2006 年秋に木ノ内一雄牧師に理事長職を替わっていただき、「通信」第 70 号には新理事長の抱負が示され、以来 6 年になるうとしておりますが、私たちの環境は重大な精神的・社会的・経済的変動の到来を予感させているように思われます。その難しい環境におけるクリスチャン パートナーズの使命を、いかに実践的な組織行動に体现していけるかが、私たちの課題ではないでしょうか。

そのためには、いかに豊かに神様が用意してくださっているかに気が付かなければいけないのではないのでしょうか。その中でも私たちの手元に許されている情報処理力を十分に活用して、インドネシアやガーナでの活動の実態を把握し、支援を潤滑・有効に行うことが必須だと思われまます。各国の同労者と励ましあい、それぞれの持つ力を動員して協力しなければなりません。

クリスチャン パートナーズの発足を促し、生涯協力を惜しまなかったアレン・フィンリー氏はじめ、私たちは多くの先達の指導・協力を得て今日まで歩んでまいりました。私は、今年度をもって理事を辞任いたしますが、今後とも理事長はじめ理事会への皆様のご指導・ご支援をお願いし、長年のご厚情に感謝して、辞任のことばを閉じさせていただきます。

草野理事長は、米国留学中にフィンリー夫妻と親交を結び、信仰に導かれました。フィンリー夫妻は草野さんを通して日本人への深い友情をはぐくみ、その交わりから、同じ留学経験を持つ同志がクリスチャン パートナーズの土台を築きました。

創設者として、理事長・理事としての 27 年間のお働きは、支援金配分処理という海外団体との複雑な隠れた会計処理で、専門家としてのお力を遺憾なく発揮されました。今後、会計は長女の竹澤三佳子理事がお引き受けくださいます。感謝です。

私たちの同労団体 CNEC シンガポールは去る 5 月に創立 60 周年を迎え、祝典に、木ノ内理事長の名代として木ノ内和美・宮澤玲子両理事が出席されました。

その機会に、インドネシアの西カリマンタンに、高橋宣教師が働いておいでになる ATI 神学校とロバン村教会の SAC 里子たちを訪ねることができました。

PI シンガポールは、CNEC シンガポールと現地によべれます。

Christian Nationals Evangelism Commission

シンガポール、西カリマンタン訪問

木ノ内和美

CNEC シンガポールの 60 周年記念式典に出席するため、宮澤玲子理事と共に、5 月 20 日羽田を出発しました。空港には、静岡から竹澤三佳子理事が見送りに来て下さいました。

翌朝シンガポールに着くと、代表者のジェームズ・ライ氏が出迎えて下さり、インドネシアの神学校を卒業した職員のジェミマと一緒に朝食をいただいた後、シンガポール事務所へ。アリスなど懐かしい職員の出迎えを受け、仮眠をとった後、初代代表のポール・チャン氏にお会いしたり、アイリーンに最近の活動について説明していただいたりしました。(アイリーンは宮澤・鳥海が 1998・2000 年にカリマンタンを訪問した時の案内係りです。)

それからジェミマと私たち二人は西カリマンタンのポンティアック空港へ飛びました。空港では、牧師でもありポンティアック事務所に隣接している神学校で教鞭をとっているサロミ女史、アンテオケ宣教会派遣の高橋めぐみ 宣教師、それに 神学生時代 私が援助していたマルティヌス兄と、奨学生のデピの出迎えを受けました。(デピはタンジュンプラ大学で勉学中。「通信」78号)

マルティヌス兄は神学校を卒業後、母校の職員として働いていましたが、4月に 奥地シントンの宗教省に異動になっていたため、夜行バスで8時間もかけて 私たちに会いに来てくれました。翌日会議があるため、1時間余の交わりの後、またバスでシントンに戻って行きました。わずかな時間でしたが、手紙でなく初めてお会いでき感無量でした。(「通信」61, 67, 83号)

マルティヌス兄を見送った後、奨学生ダミも加わり、レストラン 木ノ内理事とマルティヌス兄

ンでインドネシア料理をいただき、しばし歓談しました。(ダミもデピと同じ大学「通信」78、85号)

その日は事務所の宿舎で泊まり、2日目の早朝、イスラムの礼拝に招く声で目が覚めました。朝食後、サロミ女史、ジェミマ、運転の労を執ってくださった神学校教授と私たち 1行5人は、ヤシの茂る道を通り、一路アンジュンガンの ATI 神学校へ。2時間ほどのドライブの後、緑に覆われ、色彩豊かな草花の 生い茂る神学校に着くと、モリス校長初め、職員、神学生など 20人程の方がホールに集まり、歓迎して下さいました。

通信 86号で紹介されたニラ、デニ、マグレスの3人の神学生や、大学でクリスチャン パートナーズの奨学金を受けていたオテニエル兄が、神学校職員として総務部で働いていて、奥さんのエリザベスさんと共に

にお会いするこ

神学校教職員の方々と

とことができました。交流会では、モリス校長のウェルカムスピーチの後、宮澤理事、続いて私も一言感謝を表し、教務担当の先生の祈りで会を閉じました。手作りのお菓子をいただいた後、モリス校長、神学生3人やオテニエル夫妻などと親しくお話ができました。(オテニエル兄「通信」69号)





皆で集合写真を撮った後、高橋めぐみ先生のお住まいに行き、

御馳走の食卓を囲みました。めぐみ先生のお宅では、先生の家から高校に通うアモイ、神学校の食事のご飯炊きをしながら高校に通っているキーにも会いました。アモイはスルトウンバワン村出身で、中学生の時支援した少女です。

アンジュンガンのATI神学校訪問は最初の予定には入っておらず、高橋先生と

メールのやりとりをしている間に実現にいたしました。私たちのささやかな支援を受けて神学生や大学生たちが勉学にはげんでいる姿、そこを巣立って実際に仕事に打ち込んでいる姿を目の当たりにすることができ、心より感謝しました。周到な準備をして迎えて下さった、高橋先生

初め、アンジュンガンの皆様、私たちに同行し、フライトから車の手配など、細かなスケジュールを立ててくださったジェミマ、サロミ女史、そしてジェームズ・ライ氏はじめ CNEC シンガポールの方々に心からお礼を申し上げます。



木ノ内、オンゲン、アモイ、宮澤



高橋先生のお宅での昼食

左から高橋先生・ 宮澤・サロミ女史



オテニエル夫妻



木ノ内とジェミマ

ロバン村教会再訪

宮澤玲子

さてATI神学校に別れを告げ、2台の車に分乗してアンジュンガンを出発しました。ポンティアナックの神学校教授が運転する1号車にはサロミ女史とジェミマ、ATI神学校の教授が運転する2号車には高橋先生と私たち2人が乗せていただいて、しばし日本語の会話を楽しみました。間もなく車は一面の焼畑の中の長い一本道にさしかかります。小さな町や村々を走り抜け、見覚えのある町シンカワンにやってきました。2000年10月、ロバン村を訪問した時に鳥海さんと2人で一泊したホテルも健在でした。

シンカワンからロバン村はあっという間です。いよいよロバン村の教会に到着！出迎えてくださったのは2011年6月に赴任なさった若い中国系の牧師夫妻でした。なつかしい会堂

には約 80 名の子どもたちが集まって押し合い、へし合い興奮状態！聞けば何と 3 時間近くも私たちの到着を待っていたとのこと。子どもたちのはち切れそうな歓迎のエールに接し、こみ上げるものがありました。サロミ先生の挨拶と祈り、そして私たちの挨拶と祈りは全て高橋先生がインドネシア語 日本語へと通訳してくださり、どんなにありがたかったことか…。先生のお力添えは計りしれません。『主イエスと共に歩きましょう』を大人も子供も一緒に歌い集合写真撮影ののち、子どもたちは私たち全員と握手して家に帰り、私たちはこの後、会堂の中をみせていただきました。会堂に向かって左側にガレージが増築され、会堂の後方に新しく厨房、トイレ、洗面所、3 畳ほどの牧師夫妻専用の個室ができていました。個室といっても床にはただ一枚のマットレスが敷かれてあるだけで親子三人がおやすみになるのです。

ロバン村教会に集まった 80 人余の子どもたち



外へ出てクリスチャンパートナーズからも献金を送って購入した問題の隣地をしっかりと視察。このあと牧師夫妻に教会の現状についてお話を伺いました。



子どもたちのためには毎日曜日 8:00~10:00 日曜学校を開いています。80 人くらい来ています。成人の礼拝は 10:00~11:00 約 20 人集まります。金・土曜日には子どもたちのために「塾」を開いています。これは学校の授業の補習ですが、勉強する前に礼拝をします。水曜日の夕方は中高生のための祈り会、夜は青年のための祈り会をします。中学生

左から：ジェミマ、
ノ内、牧師夫人、牧師、神学校教授

の中で高校へ行ける子どもは、ほんの一部で中学を卒業するかしないうちに彼らは働きに行かねばなりません。その点、子どもたちのおかれた状況は20年前とあまり変わっていないようでした。

しかし若い牧師夫人は明るく、宣教と同時になんとかして子どもたちの生活を向上させようという意欲に溢れておられるようにお見受けしました。お別れに際し一同が輪になって牧師夫人が私たちのために心からなる祈りを捧げてくださいました。私たちの帰路が守られるように、日本のクリスチャンパートナーズの活動が主に喜ばれ、豊かに祝福されるように、そしてともどもに主の御栄えのために用いていただけるように...と。今回の旅行の大きな目的の一つであ

ったロバン村教会再訪はかくして感動のうち、に終り私たちは再び2台の車に

会堂の前に新しく塀が立ちました 牧師夫妻と赤ちゃん

分乗。夕闇の立ち込める中、岐れ道まで

来たときに和美さんと私は、サロミ女史・ジェミマと一緒にポンティアナックへ帰る1号車に乗り替え、アンジュンガンへと帰って行かれる2号車の高橋先生と手を振ってお名残りを惜しみました。



ロバン村教会の土地

宮澤玲子

教会が建っている土地の購入は長い間私たちの祈りの課題でした。1998年1月鳥海さんと私がロバン村を訪問した直後の3月に借地契約が切れようとしていたこの土地についてロバン村教会は[買うか、返すか]の決断を迫られていました。ヤップ牧師は購入を希望、緊急の支援要請を受けたクリスチャンパートナーズ理事会はシンガポール事務所と協議し、この要請に応える決定をしたのです。費用は20万円でした。ところが長い間連絡が取れなかった地主には売る意思が失せたようで、法外な値段を言ってきたためヤップ牧師は購入を断念し、その代わりあと5年間借り続けるという契約が成立しました。この後も購入の機会は何回か訪れ、手が届きそうになると条件が変わってしまうという希望と挫折を繰り返してきました。しかしついに祈りは聞かれ、その時はやってきました。隣接地も一緒に購入するという条件で現在教会が建っている土地は2009年に教会の所有となり登記等の法的手続きも完了したのです。

さて購入した隣接地の活用ですが教会堂は現存のものに修理・増築を行ったので当面そのまま使うこととし、隣地には幼稚園を建てる計画だそうです。子どもたちを通してその親に福音を伝える機会ができることを若い牧師夫妻は嬉しそうに語っておられました。

(この件に関してはシンガポールのジェームス・ライ氏に確認済みです。)

NEC シンガポール 60 周年記念式典

木ノ内和美

5月25日夕刻、宮澤理事と地下鉄で6時前にバートレーククリスチャンチャーチに着くと、広いホールにはすでに大勢の招待客がおいでになり、食事の用意が整っていました。ライ氏夫妻が私たちを隣の席に案内してくださいました。お心づくしの食事をいただきながら、ライ氏夫妻と歓談している時、CNEC インドネシアの代表ファン氏に紹介され、しばらくロバン村のこと、特に幼稚園建設にまで至る経過について、ライ氏の通訳でお話を伺うことができました。

7時ごろ礼拝堂に移り、式典に参列しました。CNEC シンガポールが活動する各国の国旗を揚げた旗手が入場すると、中央にいる大勢の若者が力強い讃美の歌声を聞かせてくれました。ポール・チャン氏が彼ら聖歌隊の指揮を執られました。200人以上の列席者を前に、お二人の方が力強いメッセージをされました。また、中央のスクリーンには、これまでのCNEC シンガポールの歩みをつづった映像が映し出されました。

式典の最後には、翌日80歳の誕生日を迎えられるポール・チャン氏にお祝いのケーキが贈られ、一同でHappy Birthday to you!を歌いました。

ライ氏が終わりの挨拶をされ、功労者の方々に記念のメダルが贈呈されました。式典後、日本にもメダルが贈られ、皆さまと記念の写真を撮って会場を後にしました。

今回、宮澤理事とご一緒にこのような節目の式典に参列することができ、懐かしい方々と再会したり、新しい出会いなど沢山経験することができ、ほんとうに感謝しております。また、シンガポールとの繋がりを再確認し、今後の支援の方向を考えさせられたことも、意義深い経験でした。

指揮を執るポール・チャン氏

チャン氏とご一緒に



【理事会報告】第173回理事会は2012年6月11日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。草野理事より理事辞任の意向が表明され、理事会は残念ではあるがこれを承認。2012年3・4月度会計報告承認。竹澤理事が会計事務を継承し、2011年度の決算を作成、新年度は会計報告を新形式で行う。ガーナ宛てに30万円を年度末までに送金。里親・里子数5月現在42名。木ノ内和美・宮澤玲子両理事のシンガポール・西カリマンタン訪問旅行の報告。「通信」第88号の内容は草野理事の挨拶と木ノ内・宮澤理事の旅行報告で、その原案を理事に送付し、承認を得たうえ7月中旬に発行予定。

第174回理事会は2012年8月6日(月)一ツ橋学士会館で開催予定。

(編集後記 草野理事からの辞任のお申し出は、誠に残念なことです。遠方からの理事会へのご出席や年齢・体調も考え、理事会としてはお受けするしかありません。創立者として会のために、愛情をこめてご奉仕くださったこの年月には、只々尊敬と感謝の思いでいっぱいです。

昨年の大災害の影響が、今年度の支援金収入は少々さびしいものとなりました。旅行報告にもあるように、必要としている子どもたちは減少してはおりません。新年度も、ますますのご協力をお願い申し上げます。梅雨に続く猛暑の日々、皆様にはくれぐれもお大事に。

鳥海百合子